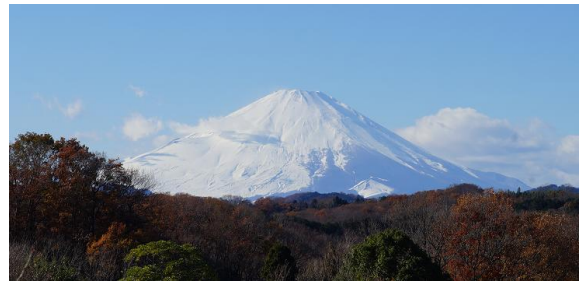


<足早>雑木林を手前にした晩秋の富士を紹介してから 20 日ほどしか経ちませんが、同じポイントから眺めた山と林の姿は今やすっかり冬のもので。頂に積もった雪は厚くなりクヌギやナラも多くの葉を落としてしまった姿が遠目にも分かります。ちょうど二十四節気の“大雪”そして



後 2 日ほどで“冬至”に入ります。それにしても例年になく寒さが足早で、もう氷が張りだしました。ビオトープの池も凍っていますがカモたちには何のその、氷を蹴散らし悠々たるものです。

<マガモと氷と落ち葉>→



<時期はずれ>生きものの世界でも相当な変わり者がいるようです。冬至になろうという時期にクサカゲロウを見かけました。天気の良い日とはいえ、さまよい出るには優に 3 ヶ月は遅いでしょう。折角ですからこの虫のことを少しばかり。小さな白い粒が 1cm 程の細い糸の先にぶら下がっているのを家の天井や木の葉裏に見かけたことはありませんか。クサカゲロウの卵、“優曇華（うどんげ）の花”です。子供のころ縁起の良くないものと聞かされたのですが、もとは三千年に一度咲く想像上のとてもおめでたい花でこの卵にその姿を見たのでしょうか。



<クサカゲロウ>

<寒さの中で>咲く花はまずツバキですがまだ少し早いようです。仲間のうち今盛りなのがサザンカそしてもう少し早いのがチャノキ(茶の木)の花です。雑木林の縁辺には野生化(逸出)したものが



<チャノキの花>

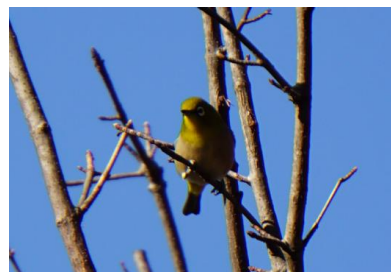


<ニホンスイセン>

のがあります。ヤツデやヒイラギも冬の花ですがこの頃あまり見かけ



<ツグミ>



<メジロ>

ません。草花ではニホンスイセンがぽつぽつと咲き出しました。<好み>ツグミがあちこちで見られるようになりました。この鳥は林より野原が好きなようで陸上競技場の芝地には沢山います。餌の昆虫や草の種が豊富な

のでしょう。一方、“チチ、チチ”と鳴きながら木々の間を飛び回っているのはメジロです。ウグイスより鶯色で眼の周りを白く化粧した何とも可愛い小鳥です。ところで枝に留まって押し合いへし合い“目白押し”を見たことはありますか。

(文と写真：松本正勝)